

「甌島のウェルビーイングを目指した PBL

～実体験を通して学ぶアクティブラーナーの育成～」

第一工科大学 工学部 学籍番号 20TB017 名前 世古匠

内容の要約

身体的、精神的に健康だけでなく、社会的、経済的に良好で満たされた状態をさす「ウェルビーイング」を甌島で目指すにあたり、どのような問題があるのか、どのような課題を設定すれば解決できるのかという視点をもちフィールドワークを行った。その結果、甌島で盛んな水産業を島外の人々を巻き込んでさらに盛り上げることが重要ではないかという考察に至った。しかし、問題として認知が広がらないということが考えられる。この問題に対する課題として政との協力や、インターネットサービスの活用、国土交通省における離島活性化交付金を活用した広告等の課題を設定することにより解決に近づくことができるのではないかと考える。

キーワード：5つ

ウェルビーイング、水産業、おさかなさばき体験、漁業就業者、甌島

1. 序論

大学生の考える未来の木育×鹿児島 アイランドキャンパス事業として、鹿児島県薩摩川内市下甌島にてフィールドワークを行った。

大学生の考える未来の木育とは、木育について、自分たちが実践するとしたらこんな授業・イベントが出来たらいいなあ、などについて既存の枠にとらわれず自由に検討した内容を発表するというものである。[1]

アイランドキャンパス事業とは、鹿児島県離島振興協議会の主催する、高等教育機関のない鹿児島県の離島を大学、短大等の学生等を対象とした学外活動の場として提供し、離島の有する豊かな自然や文化を理解してもらうとともに、地域住民も参加できる公開講座等の開催等を支援するものである。[2]

今回のアイランドキャンパス事業は「甌島のウェルビーイングを目指した PBL～実体験を通して学ぶアクティブラーナーの育成～」というテーマ

の下、行われた。甌島でウェルビーイングを目指す上で障壁となる問題を発見し、課題を設定し、解決するためにどうしたらよいか考えるということである。

北薩地域振興局林務水産課 上甌駐在 切通淳一郎様によると、甌島は鹿児島県本土より西方約 25km、北東から南西へ約 35km に渡って位置しており、人口は令和 4 年 10 月 1 日付で 3,860 人、内訳は里町 1,015 人、上甌町 1,002 人、鹿島町 336 人、下甌町 1,507 人、である。[3] 就業人口は 1,860 人であり、このうち水産業への就業人数は 170 人である。(国勢調査)

このことから、甌島は水産業が盛んであるということがいえる。このような特色をもつ甌島でウェルビーイングを目指すためには、島外の人々に甌島の水産業の魅力を知ってもらい体験してもらうことが効果的ではないかと考え、フィールドワークを実施した。



甌島の位置 [4]

2. フィールドワークの概要

甌島の水産業の魅力を学ぶためのフィールドワークとして、おさかなさばき体験、試食会、漁業見学を行った。



おさかなさばき体験の様子

おさかなさばき体験では島民の方のさばき方のお手本を見た後、島民の方々の助けを借りながら大学生一人につき一匹ずつさかなをさばいた。

かまの落とし方や魚それぞれの特徴等について優しく教えていただく



試食会の様子

試食会では島民の方々がさばいた魚を酢飯の上に好きにのせた海鮮丼とあら汁、なますを島民の方々と食べた。様々な魚が用意されており、各々大葉やわさび等をトッピングし、自分好みの海鮮丼を食べることができた。



漁業見学の様子

漁業見学の中ではたかえびの収穫やハガツオの収穫の見学を行った。その中でどのような収穫方法を用いているのか、苦勞していること等を聞くことができた。

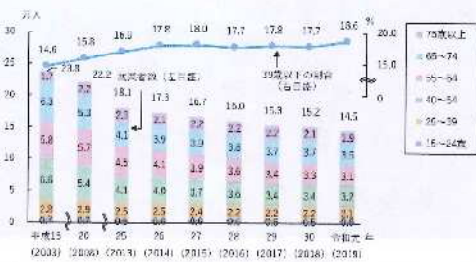
甌島のウェルビーイングを目指すためのデータとして、このフィールドワークの中で聞き取り調査を行った。

3. 観察結果

フィールドワーク等の中で聞き取り調査を行ったところ、漁業関係者の高齢化が進んでいるというお話をよく耳にした。

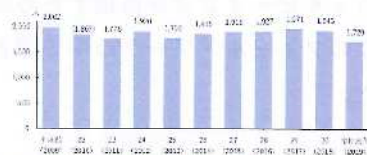
実際に水産庁でも、『我が国の漁業就業者は一貫して減少傾向にあり、令和元（2019）年には前年から4.6%減少して14万4,740人となっています（図表1）。漁業就業者数の総数が減少する中で、近年の全国の新規漁業就業者数はおおむね2千人程度で推移しており（図表2）、新規漁業就業者のうち39歳以下がおおむね7割程度を占めています。令和元（2019）年の新規就業者数は1,729人となり、前年の平成30（2018）年と比べ1割の減少となりました。就業形態別に見ると、雇われでの就業は例年並みですが、独立・自営を目指す新規就業者は前年と比べ3割近く減少しています。独立型の新規就業者は年変動が大きく、都道府県の中には増加しているところもあることから、要因については今後の推移を注視しながら分析していく必要があります。』とされている。

[4]



資料：農林水産省「令和元年漁業就業状況報告」（農林水産省）（令和元（2019）年）、「農業センサス」（平成15（2003）年、20（2008）年、25（2013）年、30（2018）年）及び「漁業就業状況報告」（その他の年）
 注：1 「新規就業者」とは、前5年以上で過去1年間に事業の毎十件事に30日以上従事した者。
 2 平成20（2008）年以降は、速いほどある漁業就業体の別から前年を引いたため、これまでは自然な減少した自治体単位に示している数値を占めており、平成15（2003）年とは異なり、減少している。

図表1 漁業就業者数の推移



資料：農林水産省「令和元年漁業就業状況報告」（農林水産省）（令和元（2019）年）、「農業センサス」（平成15（2003）年、20（2008）年、25（2013）年、30（2018）年）及び「漁業就業状況報告」（その他の年）
 注：1 「新規就業者」とは、前5年以上で過去1年間に事業の毎十件事に30日以上従事した者。
 2 平成20（2008）年以降は、速いほどある漁業就業体の別から前年を引いたため、これまでは自然な減少した自治体単位に示している数値を占めており、平成15（2003）年とは異なり、減少している。

図表2 新規漁業就業者の推移

また、笑顔の素敵な奥様が島外の人たちが甑島の魚に触れてくれることをうれしく思うと言っていた。オレンジ色の服を着た方は島の子供たちにも島を出るまでには一人で魚をさばけるようになってほしいと言っていた。

おさかなさばき体験についてはこれからも行っていきたいと言っていた。

4. 分析と考察

島民の方々への聞き取り調査をもとに、どのようにすれば甑島でウェルビーイングを目指すため、島外の人々に甑島の水産業の魅力を知ってもらい体験してもらうことができるかについて考察を行った。

フィールドワークの中での聞き取り調査から、甑島で盛んな水産業について島民の方々はとても誇りに思っているということが言える。

また、魚のさばき方等を教えることにやりがいを感じているということもいうことができる。

これらのことから、甑島でウェルビーイングを目指すためには、おさかなさばき体験の規模を拡大し、島民の方々の誇りである水産業を多くの方々に知ってもらうことが重要だと考える。

また、おさかなさばき体験を甑島で開催することにより、第三次産業の活性化も見込まれ、島の子供たちと合同で行うことも可能となる。そうすることにより、水産業だけでなく数多くの甑島の魅力が伝わっていき、ウェルビーイングにつながるのではないかと考える。

5. 結論

本研究では大学生の考える未来の木育×鹿児島アイランドキャンパス事業として、鹿児島県薩摩川内市下甑島にてフィールドワークを行い、「甑島のウェルビーイングを目指したPBL～実体験を通して学ぶアクティブラーナーの育成～」という

テーマの下、甌島でウェルビーイングを目指す上で障壁となる問題を発見し、課題を設定し、解決するためにどうしたらよいか考えた。

まず、甌島は水産業が盛んであるということを知り、その盛んな水産業を島外の方々に知ってもらい体験してもらうことがウェルビーイングに繋がるのではと考え、フィールドワークを行った。

フィールドワーク等の中で実際に聞き取り調査を行ってみると、島民の方は甌島の水産業を誇りに思っており、その誇りを理解し、体験してもらうことに喜びを感じるということが分かった。

このことから甌島でウェルビーイングを目指すためにはおさかなさばき体験の規模を拡大し、島民の方々の誇りである水産業を多くの方々に知ってもらうことが重要だと考える。また、おさかなさばき体験を甌島で開催することにより、第三次産業の活性化も見込まれ、島の子供たちと合同で行うことも可能となる。そうすることにより、水産業だけでなく数多くの甌島の魅力が伝わっていき、ウェルビーイングにつながるのではないかと考える。

しかし、おさかなさばき体験を行っているという情報を知ってもらうことができないという問題が考えられる。この問題は、行政との協力や、インターネットサービスの活用、国土交通省における離島活性化交付金を活用した広告等の課題を設定することにより解決に近づくことができるのではないかと考える。また、数少ない渡航方法であるフェリーに付加価値を付けることで、ただの移動時間を有意義な時間に変える等の企画も考えられる。

謝辞

アイランドキャンパス事業としてフィールドワーク、木育をさせていただいた、支所長、海星中学校の皆様、北薩地域振興局林務水産課 上甌駐在 切通淳一郎様、下甌島の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- [1] ひろしま森づくりコミュニティネット [ひろしま木育フェス2023（講演会&発表会） | イベント | ひろしま森づくりコミュニティネット \(genki365.net\)](#) 2023
- [2] 鹿児島 アイランドキャンパス事業 [アイランドキャンパス事業 - 鹿児島 離島のしまのサポーター \(shima-supporter.com\)](#) 2023
- [3] 薩摩川内市 HP 住民基本台帳人口 [統計データ / 薩摩川内市 \(satsumasendai.lg.jp\)](#) 2022
- [4] [甌島 地図 - 検索 画像 \(bing.com\)](#) 2012
- [5] 水産庁 水産業の就業者をめぐる動向 [\(3\) 水産業の就業者をめぐる動向：水産庁 \(maff.go.jp\)](#) 2019

「甌島のウェルビーイングを目指した PBL
～実体験を通して学ぶアクティブラーナーの育成～」

【現状分析】

渡航手段	島民の方々	第三次産業
<ul style="list-style-type: none"> ・甌島列島は鹿児島県本土から約 25km 離れているため橋はかかっておらず、空港も存在しない¹⁾。 ・一般的な渡航法としては川内港・串木野新港からの高速船とフェリーがあげられる¹⁾。 ・大学生 2 人にフェリーの満足度に関する調査を行ったところ、2 人から「プライバシーの保護が十分ではなかった」という回答が 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業に誇りを持っている。 ・若い世代の人が来ることに喜びを感じる。 ・島をどんどん盛り上げたいと考えている。 ・暖かい人間性の方が多い。 ・助け合って生活している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・甌島列島の産業分類就業者数は、第一次産業が 12.3%、第二次産業が 19.4%、第三次産業が 68.1%である。(国勢調査) ・甌島への入込客数は年によってばらつきがある²⁾。

1) 離島ガイド、鹿児島県(川内港・串木野港)から甌島への行き方 | 離島ガイド (rito-guide.com)、2023 年
 2) 田中央郎、「離島における水産業を核とした地域発展モデル -鹿児島県甌島列島を事例として-」、2012 年

【問題点と課題】

数少ない渡航手段であるフェリーの満足度が低くなっている。
 フェリー内でのプライバシーの保護と、甌島の水産物の試食会を催す等のサービスを行うことで他の離島行のフェリーとの差別化を図り、更なる第三次産業の発展と、甌島の水産物の魅力を周知させることが課題である。

【テーマ】

「フェリーの満足度アップ計画による甌島のウェルビーイング」

- 【○具体的な企画内容&●目指す姿】**
- フェリーの満足度アップに向けて
 - ・図 1 のような仕切りを設けて、お客様のプライバシーを守る。
 - ・客室販売にて甌島の名産品(水産物等)を販売する。
 - ・試食会を催して島の方との交流の機会をつくる。
 - フェリーの満足度アップを通して
 - ・辛い移動時間を楽しい移動時間に変える。
 - ・家族連れ等の若い世代の旅行客が増加し、ゆくゆくは移住者が増加する。
 - ・甌島の魅力が周知され、島民のウェルビーイングにつながる。

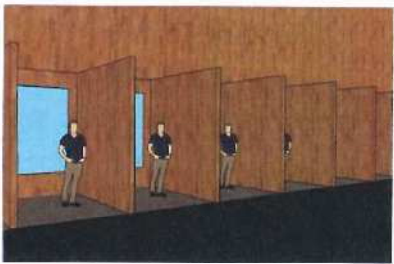


図 1 客室の例

【スケジュール】

	9~12月	1~3月	4月
計画、設計	→		
改修工事		→	
告知、事業開始			→

【収支見通し】

乗客増加 100 名/月 客単価 3,390 円
 →100×1,500 円×12 ヶ月=180 万円増収

初期費用 改修工事費 2,000 万円
 →1,000 万÷180 万=5.55

約 5 年半で初期費用分を回収可能である。

「甌島のウェルビーイングを目指した PBL」

～実体験を通して学ぶアクティブラーナーの育成～

第一工科大学 工学部 学籍番号 20TB026 名前 半下石陸

内容の要約

甌島のウェルビーイングを目指し、甌島でのフィールドワークと事前調査を通して島の現状や現地の人々の声から、若い世代の人口減少、観光客の減少などの問題が見つかりました。解決するためには、若い世代の獲得と甌島の魅力の発信が課題とされ、甌島のウェルビーイングを目指すには現代の流行をとらえた SNS が重要なカギになると考えられます。このフィールドワークで得られた結果が他の離島でのウェルビーイングを目指す上でも役に立つと思えます。

キーワード：ウェルビーイング、甌島、SNS、若い世代、甌島の魅力

1. 序論

近年ウェルビーイングという言葉をよく耳にしますが、ウェルビーイングとはどんな意味なのか調べてみると心身と社会的な健康を意味する幸福の概念であることがわかりました。現代では様々な技術革新の影響により、society5.0 の到来など、より生活がしやすく幸福度が高まっているように感じます。だが、技術革新の影響が遅れてしまう孤島などではどういった状態なのか、幸福度を感じられているのか、また、感じられていないならどういった課題があるのか疑問に思いました。ここで、私は鹿児島県薩摩川内市に位置する甌島をターゲットにし、甌島でウェルビーイングを目指す上で障壁となる問題を発見し、課題を設定し、解決するためにはどうしたらよいか考えるためにフィールドワークを行う事にしました。

2. フィールドワークの概要

フィールドワークを行う前に事前調査を行い、甌島の歴史や地理などインターネットを使い情報収集を行いました。そして、フィールドワークでは、2023年12月12日～12月13日の2日間をかけて海星中学校での授業、おさかなさばき方教室、

現地の講師や現地の方々との懇親会などを設け、そこでもかかわる人々への聞き取り調査や現地の方々を観察し調査を行いました。聞き取り調査では、1、どんなお仕事をされているか教えてください。2、甌島はどこなところですか。3、甌島はどこなところが魅力ですか。4、甌島がこれからどうなっていくと思いますか。5、若い世代にどんなことを望みますか。この5つを主に質問し調査しました。

3. 調査結果

まず、甌島の地理についてです。甌島は甌島列島ともいわれており、上甌島、中甌島、下甌島の順で北東から南西に連なる有人島3島と多数の小規模無人島からなっています。中甌島北部にある「甌」の形をした大岩を甌大明神として崇拝したことに由来し、かつては「古甌島」「小甌島」「子甌島」などとも書いていました。列島全体では、人口3,860人で、面積が117.56キロ平方メートルとなっています。甌島列島はいちき串木野市の沖合約45キロメートルにあり、島全体の長さは38キロメートル、幅は10キロメートルである。リアス式海岸と起伏に富んだ地形があります。中甌島は集落名

から平良島（たいらじま）または単に、平良とも呼ばれることがあります。



(図 甌島列島地形地図【1

次に気候についてです。年平均気温は18.4度と温暖であり、東京や大阪と比べると1.3-2.6度上回っている。川内など本土の同緯度地域と比べても一度ほど高く、夏期の平均気温に大きな差はないが、冬季の平均気温には顕著な差がある。年降水量は2,430mmであり、本土の同緯度地域や鹿児島市とほぼ等しく、東京や大阪の1.5倍-1.8倍の降水がある。夏・秋には台風、冬には季節風の影響を強く受け、台風の影響は列島の西海岸よりも東海岸の方が著しい。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温°C (°F)	15.1 (59.2)	17.1 (62.8)	19.1 (66.4)	21.1 (70.0)	23.1 (73.6)	25.1 (77.2)	27.1 (80.8)	29.1 (84.4)	31.1 (88.0)	30.1 (86.2)	28.1 (82.6)	26.1 (79.0)	25.1 (77.2)
平均最高気温°C (°F)	11.8 (53.2)	13.8 (56.8)	15.8 (60.4)	17.8 (64.0)	19.8 (67.6)	21.8 (71.2)	23.8 (74.8)	25.8 (78.4)	26.8 (80.2)	25.8 (78.4)	23.8 (74.8)	21.8 (71.2)	19.8 (67.6)
日平均気温°C (°F)	6.6 (43.9)	7.4 (45.3)	11.0 (51.8)	15.0 (59.0)	18.4 (65.1)	21.2 (70.2)	23.6 (74.5)	25.6 (78.1)	26.4 (79.5)	25.4 (77.7)	23.4 (74.1)	21.4 (70.5)	18.4 (65.1)
平均最低気温°C (°F)	2.0 (35.6)	2.8 (37.0)	5.4 (41.7)	10.3 (50.5)	14.8 (58.6)	18.2 (64.8)	21.0 (70.0)	23.0 (73.4)	24.5 (76.1)	23.5 (74.3)	21.5 (70.7)	19.5 (67.1)	15.0 (59.0)
最低気温°C (°F)	-0.2 (31.6)	-0.2 (31.6)	-0.7 (30.7)	0.4 (32.7)	5.4 (41.7)	10.3 (50.5)	14.8 (58.6)	18.2 (64.8)	21.0 (70.0)	23.0 (73.4)	24.5 (76.1)	23.5 (74.3)	19.5 (67.1)
降水 mm (inch)	116.0 (4.57)	114.0 (4.49)	158.0 (6.22)	170.0 (6.70)	206.0 (8.11)	206.0 (8.11)	188.0 (7.40)	229.0 (9.02)	234.0 (9.21)	202.0 (7.95)	160.0 (6.30)	116.0 (4.57)	1,766.0 (69.53)
平均降水日数 (≥1.0mm)	10.4	10.3	12.4	12.8	14.5	14.5	13.9	15.8	16.4	14.5	12.8	10.4	127.8
平均月別日照時間	111.3	122.8	129.1	177.3	177.3	167.5	179.2	203.8	172.8	152.0	141.4	109.8	1,620.3

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温°C (°F)	15.9 (60.6)	17.9 (64.2)	19.9 (67.8)	21.9 (71.4)	23.9 (75.0)	25.9 (78.6)	27.9 (82.2)	29.9 (85.8)	31.9 (89.4)	30.9 (87.6)	28.9 (84.0)	26.9 (80.4)	25.9 (78.6)
平均最高気温°C (°F)	11.2 (52.2)	13.2 (55.8)	15.2 (59.4)	17.2 (63.0)	19.2 (66.6)	21.2 (70.2)	23.2 (73.8)	25.2 (77.4)	26.2 (79.2)	25.2 (77.4)	23.2 (73.8)	21.2 (70.2)	19.2 (66.6)
日平均気温°C (°F)	6.4 (43.5)	7.4 (45.3)	11.0 (51.8)	15.0 (59.0)	18.4 (65.1)	21.2 (70.2)	23.6 (74.5)	25.6 (78.1)	26.4 (79.5)	25.4 (77.7)	23.4 (74.1)	21.4 (70.5)	18.4 (65.1)
平均最低気温°C (°F)	2.0 (35.6)	2.8 (37.0)	5.4 (41.7)	10.3 (50.5)	14.8 (58.6)	18.2 (64.8)	21.0 (70.0)	23.0 (73.4)	24.5 (76.1)	23.5 (74.3)	21.5 (70.7)	19.5 (67.1)	15.0 (59.0)
最低気温°C (°F)	-1.9 (28.8)	-1.2 (29.8)	-0.1 (31.8)	2.4 (36.3)	8.0 (46.4)	14.1 (57.4)	19.2 (66.6)	23.2 (73.8)	25.2 (77.4)	26.2 (79.2)	25.2 (77.4)	23.2 (73.8)	19.2 (66.6)
降水 mm (inch)	113.5 (4.47)	118.0 (4.65)	152.0 (6.00)	170.0 (6.70)	212.0 (8.35)	212.0 (8.35)	192.0 (7.56)	225.0 (8.86)	234.0 (9.21)	198.0 (7.80)	152.0 (6.00)	113.5 (4.47)	1,767.0 (69.57)
平均降水日数 (≥1.0mm)	10.4	10.3	12.4	12.8	14.5	14.5	13.9	15.8	16.4	14.5	12.8	10.4	127.8
平均月別日照時間	111.3	122.8	129.1	177.3	177.3	167.5	179.2	203.8	172.8	152.0	141.4	109.8	1,620.3

(上、鹿児島川内の気候 下、中甌の気候【2

そして、列島外部との交通についてです。甌島列島は昔、琉球諸島から天草・長崎・朝鮮半島・日本海に向かう船の通り道にあり、琉球とのつながりが深いとされています。また、戦前までは鹿児島本土よりも天草や長崎などのつながり方が強い時代がありました。1901年（明治34年）には九州商船が本土と甌島列島との間に航路を開き長崎-天草-一里-手打を結んでいたが、1928年（昭和3年）にはこの航路が廃止され、串木野と甌島を結ぶ航

路が開かれています。1951年（昭和26年）には阿久根と甌島を結ぶ航路が2日に1便就航し、1952年（昭和27年）からは毎日就航に変更されています。1971年時点の運賃は里までが270円、手打ちまでが480円でした。阿久根港・串港間の33kmを約2時間で結んでいましたが、台風の前後は欠航が相次いだとされています。九州商船は他には、1956年（昭和31年）から保険船が週に2便運航され、平・中甌島間には舢舨が1日数便運航されていました。[3 2002年（平成14年）までは串木野から長崎に大型フェリーが運航され、甌島列島-串木野-長崎は経済的つながりが続いていました。現在の航路は串木野港-甌島列島のフェリーと川内港-甌島列島の高速度船の2つで、それぞれ1日に2便ずつの運航になっています。



船名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
船名	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216
船名	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216
船名	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216	12,216

(図 フェリー-ニューこしき【4

さらに、人口についてです。国勢調査が始まった1920年（対象9年）から1940年代まで甌島列島の人口は2万人強で推移し、1950年（昭和25年）には21,744人とピークに達しました。しかし、1950年から1980年（昭和55年）の人口減少が著しく、いずれの集落でも1/2から1/3に減少しており、この期間中に1/4以下となった集落も存在します。奄美大島の瀬戸内や宇検村と並んで、甌島列島は鹿児島県の離島の中で特に過疎化が著しい地域であり、全国の離島のなかで最も人口減少が激しい島の1つでした。1965年（昭和40年）か

ら1970年（昭和45年）の間に鹿児島県の本土で人口が20%以上減少した自治体はなかったが、甕島列島の4村はいずれも20%以上の減少率を記録し、特に鹿島村では43.3%という極めて高い減少が見られました。【5】



（図 甕島人口グラフ【5】）

そしてさらに、経済についてです。2010年（平成22年）の国勢調査による甕島列島の産業分類別就業者は、第一次産業が12.3%、第二次産業が19.4%、第三次産業が68.1%であり第一次産業の内訳が、農業が1.3%、林業が0%、水産業が10.9%です。【5】就業者数・総生産額ともに、日本全体の平均に比べて第一次産業（特に水産業）が大きな割合を占め、甕島列島の基幹産業は農林水産業である。甕島列島周辺海域はアジ、サバ、ブリ、などの回遊魚に加え、キビナゴ、バショウカジキ、アワビなど水産資源が豊富で、鹿児島県内有数の漁場となっています。甕島漁協の水揚げ量の45%を刺網漁業で漁獲したキビナゴが占め、鹿児島県最古の歴史を持つ定置網漁業や、カンパチとマグロの養殖漁業もおこなっています。【3】もう1つ欠かせないものが観光業です。2009年（平成21年）の上甕島への観光客は約21,400人、中甕島への観光客は約1,700人、下甕島への観光客は約14,100人であり、観光客は上甕島が最も多いです。列島内にはキャンプ場、海水浴場、ダイビング場などの観光施設が整備されており、その他にも甕大明神マラソン大会、甕島アクスロン大会、甕島イカ釣り大会、竜宮文化フェスタなどのイベントが開催されている。【3】

最後に聞き取り調査の結果についてです。

1, どんなお仕事をされていますか？

漁師、教員、役場、消防士、医者、主婦

2, 甕島はどんなところですか。

- ・ 漁業が有名なところ
- ・ 山がいっぱい、海に囲まれているところ
- ・ 狭く感じるけど意外と広いところ

3, 甕島のどんなところが魅力ですか？

- ・ 自然に囲まれていて、空気がきれい
- ・ 季節によって景色が変わって1年中楽しい
- ・ 魚がいっぱい食べられる
- ・ 人間が暖かい

4, 甕島がこれからどうなってほしいですか？

- ・ 昔の美しい風景を取り戻したい。
- ・ 住む人や観光客がいっぱい増えてほしい。
- ・ 島をどんどん盛り上げたい。

5, 若い世代にはどんなことを望みますか？

- ・ 独り立ちできるようになって、幸せな家庭を持ってほしい。
- ・ 島を出て色々な事を学んで、立派になって、島に戻ってきてほしい。
- ・ 島を盛り上げてほしい。

といった結果が得られました。

4. 分析と考察

調査結果から、甕島は本国では暖かく過ごしやすい地域となっていて、海や山など自然に恵まれていて、観光名所となるような場所や水産資源にも恵まれているなど、現地の方々の聞き取り調査でもあるようにとても魅力的な場所であることがわかりました。だが、1950年代をピークに人口の減少が著しく現在では、ピーク時の1/4程になっています。それに伴い、列島外部との交通手段も減り、現在ではフェリーと高速船の2つでどれも鹿児島とつなぐ便しがありません。それらによって

観光客や移住者の獲得がはかどっていないと考えられます。甕島のウェルビーイングに関しては聞き取り調査の結果からほとんどの方々が幸福度を感じていると分かります。しかし、上記でも記しているように人口の著しい減少や、観光客の数、島外への交通手段などに不憫を感じていると考えられます。また、聞き取り調査や事前調査から若い世代が島から出て独り立ちすると、島には帰らずに他の場所で過ごすことが多く、若い世代が少ないことがわかります。これも、人口の減少や幸福度の低下の原因になっていると考えられます。これらの事から、甕島でのウェルビーイングを目指す上で障壁となる問題は、人口の減少と観光客の減少であると考えました。

5. 結論

フィールドワークの結果から甕島でのウェルビーイングを目指す上で障壁となる問題は、人口の減少と観光客の減少であることがわかりました。甕島で育った子供たちは島を離れそのまま帰ってこないことが多く、戻って島で暮らす人はほんのひとにぎり、甕島を盛り上げるためにも若い世代の力を欲している状況だと感じました。甕島でのウェルビーイングを目指すためには、若い世代の住人・移住者の獲得と甕島の魅力の発信が課題であると感じました。私自身、鹿児島に住んでいますが甕島の存在すら知らず、このような機会がなければ知ることも行くこともなかったかもしれません。甕島の事を知り、甕島でのフィールドワークを通して甕島の魅力や観光名所などの発信もしていることがわかりましたが、あまり知られていないのが現状だと思います。このことから、第1に考えるべきなのは島の魅力の発信だと思います。解決するためには、SNSを上手く利用し甕島の魅力を発信することが良いのではないかと考えました。なぜなら、現代ではICT技術が発展し、様々な情報がどんな場所でもすぐに取得できます。

YouTubeやInstagram、Twitter(X)などSNSが急激に復旧しそれらを利用している年代別の割合ではその過半数を10代、20代、30代が過半数を占めているからです。【6】芸能人や若者たちの中心を担っているともいわれるインフルエンサーの力を借り魅力を発信することが1番効率良く発信できると思います。現に、TikTokというアプリを利用し島の魅力や島の復興プロジェクトを行っている方々も見られます。こういったSNSを上手く活用し島の魅力を発信することでおのずとSNSの利用者数の中心でもある若い世代にも甕島の事を知ってもらい、さらに、そこで島全体で行う漁業体験やさかなさばき方教室などのイベントも企画し、告知を行う事で甕島の良さや魅力を身をもって知ることができ、若い世代の住人・移住者の獲得にも繋がると思います。今回は甕島をターゲットにし考えましたが、わが国には他にも多くの離島がありその多くの離島が甕島と同じような問題を抱えていると思います。今回のフィールドワークを通して得られた課題や解決策これらは、そのような離島でも問題の解決に役立つと私は考えています。

6. 参考文献

- 【1】甕島列島地形写真 <http://maps-for-free.com/>
- 【2】気象庁 Japan Meteorological Agency (jma.go.jp)
- 【3】甕島列島 - Wikipedia
- 【4】時刻表 | 甕島商船 オフィシャルサイト (koshikisho.co.jp)
- 【5】統計局ホームページ/平成22年国勢調査 (stat.go.jp)
- 【6】【2023年8月最新】SNSの利用者数とユーザー属性や特徴まとめ | 株式会社フルスピード (growthseed.jp)

甌島でのウェルビーイングを目指す提案

～若い力で若い世代の獲得を～

「現状分析」

- ・甌島は、わが国では暖かく過ごしやすい地域でとても魅力的なところだが 1950 年代をピークに人口の減少が著しい。さらに、若い世代のほとんどが島から出て独り立ちすると、島に帰らずに他の場所で定住してしまう。
- ・観光客の減少に伴いフェリーなどの交通手段が減少している。
- ・甌島の事や魅力の認知度が低い。

「問題点と課題」

- ・甌島の人口減少や観光客の減少これらの原因は、若い世代の人口の低下や認知度の低さが問題であると考えられます。ウェルビーイングを目指すためには若い世代への情報発信が課題であり観光客が島を訪れる動機づくりが必要です。

「テーマと主なポイント」

インフルエンサーの DES (ディーイーエス) 計画によるウェルビーイングの実現

- D・・・diffusion (拡散) SNS などを利用し魅力の発信、拡散
 E・・・experience (体験) 様々な体験活動を行い魅力や認知度の向上
 S・・・support (支援) 甌島の方々や企画者が互いに支え合う

「具体的な企画内容」

- ① 魅力の発信について
ターゲットを若い世代としているので、若い世代に影響のあるインフルエンサーを雇う。そして、TikTok や Instagram などを利用して甌島の魅力や体験イベントの開催予告の拡散を図る。
- ② 体験イベントについて
甌島で盛んである漁業の 1 日体験や、おさかなさばき教室、など予定を決め、インフルエンサーや甌島の方々が主催で開催する。
- ③ 支援について
参加者の泊まる宿の提供や、交通費の支給、食事の提供など甌島一丸となって行う。移住者に対するサポートも手厚いことを伝える。

「スケジュール」

	1～3月	4～7月	8月
企画の詳細	→		
発信		→	
実施			→

「コスト」

インフルエンサーに対する給与
 →20 万円 (宿泊代、食費代、交通費を含む)
 参加者の交通費支援→人数× (最大 2 万)
 参加者の宿泊代→日数×人数× 5 千
 イベントにかかる費用→15 万 計 100 万

甌島列島における地方創生による人口減少対策

～日本各地の離島で行われている地方創生事業を参考とした～

第一工科大学 工学部 20TB035 六田和宏

内容の要約

甌島列島は、人口減少と高齢化に直面しており、地方創生を通じて解決策を模索している。日本各地の離島で行われている地方創生事業を参考に、アートによる島おこしや観光振興に力を入れることが挙げられる。具体的には、愛知県の佐久島や香川県の直島のように、アートや自然を活かした島の魅力を発信する取り組みが成功している。提案されている甌島フードアートの島計画では、環境ツーリズムに加えて、食や Instagram を活用した商品開発や写真コンテストを通じて島の魅力を広く発信する考えだ。さらに、島内外の教育機関と連携し、若者に島の魅力を発信し、全国に知らせることを目指している。

キーワード：5つ

甌島列島・地方創生・アート・食・町おこし

1. 甌島について

今回対象としている甌島列島は、薩摩川内市の川内川河口から西方約 26 キロメートルの東シナ海上に位置し、北東から南西方向に 35 キロメートルに連なり、北部に位置する上甌島、中部に位置する中甌島、南部に位置する下甌島の 3 つの島から形成されています（図 1、図 2）。そして豪壮な海食崖、特異な湖沼群、鹿の子百合の原生地、緑豊かな常緑広葉樹原生林と、他では見られない自然景観に恵まれています。キビナゴ漁を中心とした漁業の盛んな島で、新鮮な魚介類も豊富です。（図 3）人口は、令和 2 年国勢調査で 3 島合わせて 3,983 人、高齢者率は 50% 超となっており、人口減少や少子高齢化の影響を受けています。そこで今回は、現在甌島が直面している課題、人口減少に対してどのような対策が行えるかを検討していく。



図 1) 甌島の位置：Google マップ



図 2) 甌島の地理とアクセス※ 2



図 3 甌島の観光資源 左上：※ 3

右上：※4
左下・右下：※5

2. 日本各地の離島で行われている地方創生

日本は、14,125の島嶼により構成され、本州、北海道、四国、九州、沖縄本島を除く14,120島が離島。このうち、離島振興法による離島振興対策実施地域に含まれる有人離島は256島あり※6、それぞれさまざまな地方創生事業が行われています。離島で行われている地方創生事業については以下のものなどが挙げられています。（表1・表2・表3・表4・表5）※6

下表以外にも様々な取り組みが全国各地で行われています。

取組項目	取組内容	場所	島名
新たな島めぐりによる「島の発見」の確立	島の食材を用いたレストランによる活性化 ジオサイトを活用した環境ツーリズム	佐賀県唐津市 鹿児島県志布志市	松島 種子島
新たな島めぐりコンシェルジュ	島村生活を資源とした体験型観光の推進	三重県鳥羽市	志志島
外国人雇用	外国人による海外旅行客誘致	鳥取県西ノ島町	西ノ島
ホビーツーリズム	サブ文化/趣味の取組	東京都新島村	新島
観光と大学の連携	観光連携地域づくり アイランドキャンパスの推進	長崎県佐世市 鹿児島県鶴岡島地域	佐世島 中ノ島
親子・子ども向け	子育て体験ツアー	鳥取県大子町	大子上島
島の生活体験	島の自然を生かした体験型修学旅行	長崎県大島町	大島
観光留学	実地体験型留学 十島村海洋留学	鹿児島県十島村	実島
働き方改革	サテライトオフィス/テレワークセンターの活用 サテライトオフィス/テレワークセンターの活用	長崎県松浦市 長崎県松浦市	松浦島 松浦島

表1：離島創生プランの事例集—平成30年3月離島振興課調べ—

取組項目	取組内容	場所	島名
企業誘致・企業支援	ITベンチャー等にターゲットをしぼり企業を誘致 ベンチャー企業を育てる雇用創出 先進設備を活用した企業誘致 IT企業をターゲットにしぼり企業を誘致	徳島県海陽町 岡山県西宮町 兵庫県伊丹市 長崎県西島町	徳島 西宮島 伊丹島 西島
新規産業創出	「職つばビジネス」による地域の活性化 企業の事業種への新規参入による雇用の創出 新たな産業形態による雇用の創出 漁白や長束スライムによる雇用の創出 観光と観光産業を活用した特産品開発による雇用の創出 漁業と観光産業の連携によるブランド化や体験型観光による雇用の創出	徳島県海陽町 北海道札幌市 福岡県高宮町 沖縄県小樽町 静岡県伊豆市 徳島県志布志市 愛知県尾張旭市	海陽島 札幌島 高宮島 小樽島 伊豆島 志志島 尾張島
観光	体験型産業、レストラン等による雇用の創出 ホテルやキャンプの活用による雇用の創出 自然体験学習による雇用の創出	三重県伊賀市 東京都志摩市 北海道釧路市 沖縄県八重島町	伊賀島 志摩島 釧路島 八重島
観光・文化分野	必ずしも観光産業による雇用の創出 CS事業や商品開発による雇用の創出 シニア層への加工品のブランド化による雇用の創出 地域の資源を活用したジャンルの製作・販売による雇用の創出 観光産業や施設、ネット誘致での観光による雇用の創出 全国に手巻ワパンを輸出し雇用創出	宮崎県高橋町 徳島県志摩市 愛媛県大島町 山口県周防大島町 愛媛県西ノ島町 長崎県西島町	高橋島 志摩島 大島島 大島島 西ノ島 西ノ島

表2：雇用創出の事例集—平成28年6月離島振興課調べ—

取組内容	場所	島名
1 漁業と観光産業の連携による地域経済の循環	徳島県海陽町	海陽島
2 「職つば」の活用による地域の活性化	徳島県志布志市	志志島
3 漁業と観光産業の連携による地域経済の循環	徳島県志布志市	志志島
4 体験型産業、研究開発による雇用の創出	徳島県志布志市	志志島
5 生活体験型観光の推進による雇用の創出	徳島県志布志市	志志島
6 中堅企業が観光産業の活用を促した人材支援プロジェクト	徳島県志布志市	志志島
7 島内外からの雇用を創出する観光産業の創出	徳島県志布志市	志志島
8 観光と大学の連携による地域づくり	徳島県志布志市	志志島
9 観光の振興・新産業創出による雇用の創出	徳島県志布志市	志志島
10 ワークスペースによる中小企業の雇用創出の推進・向上	徳島県志布志市	志志島
11 積極的な定住促進施策による人口の回復	徳島県志布志市	志志島
12 全国的な販路の開拓による人口の回復	徳島県志布志市	志志島

表3：離島の定住促進事例集—平成25年度新しい離島振興施策に関する

る調査より抜粋—

取組項目	取組内容	場所	島名
観光	DMOによる観光を軸とした島内産業の振興と雇用創出 宿泊を軸とした観光関連産業や観光と地域経済を活用した消費財開発	徳島県小樽町 沖縄県伊江村	小樽島 伊江島
	地域の複数の官民業者が一体的に活用した観光施設 地域産業を生かした体験型観光の推進 島業と観光産業の連携によるブランド化や体験型観光の推進 漁業の活用による「漁村生活」を資源とした体験型観光の推進	長崎県西島町 徳島県志布志市 三重県志布志市 福岡県志布志市	西島 志志島 志志島 志志島
医療	医師と患者の距離縮小と連携、及び医師ドクターへ呼びかけた。数々の患者の救済 電子カルテとTV会議システムによる遠隔医療の推進 診療開始と併走する観光への取り組み	沖縄県 香川県高松市 岡山県山崎町 岡山県山崎町	志志島 志志島 志志島 志志島
	本島の病院との連携によるTV電話診療を用いた遠隔医療システム等の整備	徳島県志布志市	志志島
教育	ICTを活用した離島教育の活用 島外から講師を募集して研修を開設 少人数制の通学制度を創出した山村留学 小中高校と連携を推進 キャリア教育、公民館、島留学による離島の若者の人材育成	沖縄県 沖縄県志布志市 長崎県佐世市 長崎県佐世市 鳥取県大子町	志志島 志志島 志志島 志志島 志志島
	「島内工業部」の「教育」による島産品開発 大学の連携による地域産業の活用 観光銀行による地域内ネットワークの構築	徳島県志布志市 鹿児島県志布志市 長崎県佐世市	志志島 志志島 志志島
マッチング	必要人材を明確にした居住促進策の推進 複数機関・機関の連携による地域産業 企業等が導入するNPOによる地域産業	岡山県山崎町 岡山県山崎町 山口県山崎町	志志島 志志島 志志島
	その他・全般	島産品販売の促進による行政に頼らない雇用の創出 大田による定住促進と産業振興による移住者の増加 インフラ整備と学校の再開による人口の回復 島産品の活用による移住者の増加	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市

表4：観光・海業・医療・教育・マッチング分野の先進的・効果的な取組

事例集—平成27年度離島振興のあり方検討会資料より抜粋—

取組項目	取組内容	場所	島名
交通・通信分野	島の中心による観光の向上と観光産業の推進 公共交通による島内観光の促進 島の中心による観光の向上と観光産業の推進	岡山県志布志市 岡山県志布志市 岡山県志布志市	志志島 志志島 志志島
	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
産業	NPO法人による運営の向上と観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
雇用分野	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
観光・文化分野	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島
	観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進 観光と観光産業の連携による観光産業の推進	徳島県志布志市 徳島県志布志市 徳島県志布志市	志志島 志志島 志志島

表5：離島振興の活性化等に係る先行事例集—平成24年度離島振興基

本方針策定調査より抜粋—

3. 離島で行われている地方創生の具体例

前段で資料としてあげたおもしろいにもさまざまな事例があり、そこ中でも私が着目したものは「島全体のブランディングするまちおこし」です。その中でもアートによるまちおこしについてです。

具体的な実践事例については、愛知県の佐久島や香川県の直島などがあります。

佐久島は、三河湾に浮かぶ人口 300 人ほどの島で「アートによる島おこし」が勧められており、20～30 代の若者を中心とした多くの観光客が訪れる島となっている。さらに、島にアートを散りばめるだけでなく、島の歴史とアートを結び発信する取り組みやアート体験などを通して「佐久島ならではの魅力」を発信しており、魅力を発信する相手としてターゲットとしているのは、「行動力と好奇心を持ち、コミュニケーションに関心のある若い世代」。アートをきっかけに、人が島の資源に出会う機会を創出しています。(図 4、図 5、図 6)



図 4) 佐久島の場所：Google マップ



図 5) 佐久島航空写真※ 7

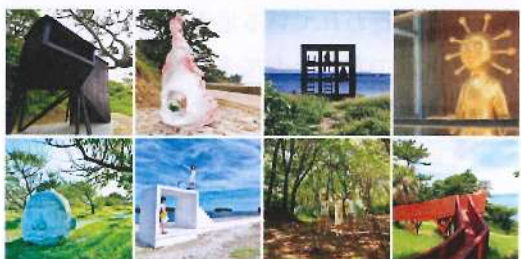


図 6) 佐久島にあるアートの数々※ 7

香川県の北に位置する直島は、周囲約 16km、人口 3200 人ほどの小さな島です。そして、島のいたるところで現代アート作品に出合える『現代アートの島』として有名です。周りの風景に溶け込み、自然と一体となった作品があちこちで見られるのが魅力で、草間彌生さんをはじめ著名なアーティストの作品が屋外に展示されており、自由に鑑賞できます。また、美術館とホテルが一体化したベネッセハウスでは、「自然・建築・アートの共生」をコンセプトとした現代アートにどっぷりと浸ることができることができます。『現代アートの島』としての注目が集まり、島民とも協働し島のブランディングを推し進めるまちおこしが島の活力となっています。(図 7、図 8、図 10)

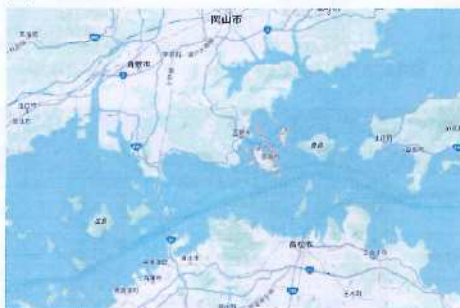


図 7) 直島の場所：Google マップ



図8) 直島の全体図※9

このようにアートを利用することで若者の流入に繋がり島おこしにつながると考えています。

4. 今回提案する地方創生事業

今回、提案する地方創生計画は「甌島の自然×食×アート」をコンセプトにした“甌島フードアートの島計画”です。

現在甌島では、甌島の大自然を生かした環境ツーリズムを行っているが、インストラクターの要請などに時間を要しているため実践までに多くの時間を必要としています。

そこで今産業としても行われている「食」と若い世代のメインツール「Instagram」を活用したインスタ映えを狙った商品の開発や、甌島での写真対象としたコンテスト「こしきフォトコンテスト」などで現地に来てもらう工夫を行うことで写真だけじゃ伝わらない甌島の魅力を伝えられると考えています。

さらに商品の開発や整備についても島内外の高校、大学に協力を仰ぐことで県内から甌島の魅力を広め全国へと広められるのではないかと考えています。

参考文献

※1：薩摩川内市 HP：甌島ってどんな島？

<https://www.city.satsumasendai.lg.jp/soshiki/1007/2/5/1/274.html>

※2：ビックホリデー：甌島ツアー&観光案内

<https://big.jp/kyushu/koshikijima/>

※3：鹿児島県観光サイト かごしまの旅 | 甌島

<https://www.kagoshima-kankou.com/guide/52850>

※4：日本の国境に行こう！！ | 甌島列島エリア

<https://kokkyo-info.go.jp/island/kagoshima/area11/>

※5 鹿児島県観光サイト かごしまの旅

<https://www.kagoshima-kankou.com/feature/koshikitabi/gourmet>

※6：離島振興の活性化等に係る先行事例集

https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/kokudoseisaku_chirit_tk_000012.html

※7：佐久島公式 HP 島の紹介

<https://sakushima.com/guide-top/outline/>

※8：「直島観光旅サイト」直島町観光協会公式

<https://naoshima.net/art/>

甌島列島の特色を生かした島おこし提案

—“自然×食×アート”若者をターゲットに Instagram 映えを狙ったフードアートの提案—

1. 現状

甌島は薩摩川内市の川内川河口から西方約 26 キロメートルの東シナ海上に位置し、北東から南西方向に 35 キロメートルに達し、北部に位置する上甌島、中部に位置する中甌島、南部に位置する下甌島の 3 つの島から形成されています（図 1、図 2）。そして豪壮な海食崖、特異な湖沼群、鹿の子百合の原生地、緑豊かな常緑広葉樹原生林と、他では見られない自然景観に恵まれています。キビナゴ漁を中心とした漁業の盛んな島で、新鮮な魚介類も豊富です。（図 3）人口は、令和 2 年国勢調査で 3 島合わせて 3,983 人、高齢者率は 50% 超となっており、人口減少や少子高齢化の影響を受けています。

2. 問題点と課題

現在甌島では、人口減少や少子高齢化の影響で島の過疎化が問題となっている。

3. テーマとポイント

「甌島の魅力に一手間加えて新たな魅力を発見！」

・甌島にあるものの使い方を変えるだけで行える町おこし。→余計なコストをかけずに町おこしが見込める。

・Instagram など SNS をメインに行う。→若者をターゲットにすることで少子化対策へとつながる。

4. 具体的な内容

(ア) 料理について

料理については地場産のものを 1 品は使用する。

(イ) Instagram の活用

Instagram のアカウントフォローで割引キャンペーン
フォトコンテストの実施

5. 予算

各店舗あたりの補助金 5 万円

広告費 50 万円

フォトコンテスト 10 万円